



ジョブ・カードを使って  
社員も会社も **もっと** 元気に！

## 大学生のインターンシップ体験の振り返りに ジョブ・カード作成講座を活用！



【就職ガイダンスでの学生ニーズ調査】【インターンシップの事後指導とジョブカード作成講座】

【大 学 名】 山形大学  
 【所 在 地】 山形県山形市、米沢市、鶴岡市  
 【設 置】 1949年5月  
 【学 生 数】 約9,000人  
 【業 種】 教育・学習支援  
 【事業概要】 人文社会科学部・地域教育文化学部・理学部・医学部・工学部・農学部の6学部と7研究科を備える東日本でも有数規模の総合国立大学  
 【本事業協力教員】 准教授 松坂暢浩・山本美奈子

**取り組み目的：**  
 インターンシップ体験の振り返り、自身の価値観・強みを言語化し、応募書類を作成

**取り組み内容：**  
 インターンシップ事後学習のセミナー内で、ジョブ・カード活用講座を実施

**導入成果：**  
 満足度99%！体験を整理し、自分らしさについて言語化、自己理解を深めることができた

**Q.ジョブ・カードを導入しようと思ったきっかけは何ですか？**

東北広域ジョブ・カードセンターより、就職セミナーやインターンシップセミナーでのジョブ・カード活用の提案を受けました。ジョブ・カードの主旨は理解できましたが、まずは学生のニーズを調査した上で、導入を検討することにしました。  
 そこで、9月・10月に実施した3キャンパスの就職ガイダンスのなかで、ジョブ・カードの説明と作成講座を開催し、各々の参加ニーズに関するアンケート調査を実施しました。調査の結果、回答者474名のうち95%が「講座に参加したい」と回答しており、学生の関心が高いことから、東北広域ジョブ・カードセンターに協力いただき、ジョブ・カードの活用を図りたいと考えました。

**Q.ジョブ・カードをどのように活用しましたか？**

11/5、11/7の2回、インターンシップ参加者に対する事後学習のセミナー内で、ジョブ・カード活用講座を実施しました。  
 まず、学生がインターンシップ体験の振り返りを行い、その後に、東北広域ジョブ・カードセンターの講師よりジョブ・カードの説明とジョブ・カードを活用したワークを行いました。  
 具体的なワークの内容として、学生用補助シートを活用し、選んだ項目の理由とエピソードをインターンシップの体験を踏まえて記載する形で行いました。ワークの際には、東北広域ジョブ・カードセンタースタッフが見回り、記入の手が止まっている学生に対するアドバイス等のサポートを行っていただきました。

**Q.導入前後を比較して、あなた自身や社員・組織にどんな効果がありましたか？**

講座参加者は86名。アンケートの結果、満足度が99% (大変有意義、有意義の合計)と非常に好評でした。感想には「順番に沿って自己分析ができ、考えやすかった」「強みと弱みが明確になった」などがあり、学生の自己理解が深まっていることが確認できました。  
 学生の満足度も高いジョブ・カード活用を、さらに発展させたいと考え、就職活動を直前に控えた2月に、大学3年生対象としたキャリアコンサルティングを実施しました。また、山形大学生協の担当者にも活用を勧めた結果、生協主催のセミナー内でジョブ・カード活用講座を2回実施することになるなど、今後も様々な場面で活用していきたいと考えています。